2024全日本大学総合卓球選手権大会（個人の部） 審判員周知事項

１．審判員のコート割は、大会当日出欠を兼ねて発表します。
① 28日(月)～30日(水)の3日間、基本的には１台につき３名体制となります。
② 4日目は指名された審判員が各コートの主審・副審を務めることになります。

２．昼食は各コートの審判員間で調整しながら各自とって下さい。

３．全試合トーナメント方式で、男女ダブルスは全て５ゲームスマッチ、
男女シングルスはランキング決定戦前までは５ゲームスマッチ、
ランキング決定戦以降（30日の４回戦）は7ゲームスマッチとなります。
記録用紙は７ゲームスマッチ用となっていますので、５ゲームスマッチの試合は
６～７ゲームの箇所を消して使用してください。

４．ボールは、「バタフライ ３スター・R40+ボール」を使用します。

５．各コート専用のカゴに審判員に必要な備品が入っています。（＊１参照）

① 各日の第１試合は、主審が進行から記録用紙（複写式ではなく１枚）を受領し、
副審は予備のボールを選球所から１個取って所持し、揃って競技領域に入場。

② 各選手（組）は、選球所で試合球２個を選んでコートに入りますので、
試合開始前に競技領域内で主審が受け取り、試合球は受領した４個の中から
任意に１個選択してください。

③ 各コート専用のカゴは副審台の中に置き、試合を開始して下さい。

④ 試合が終了したら、記録用紙の誤記入を防ぐため副審との確認を行い、
勝者のサインをもらい（選手が写真撮影を求めたら許可する）、
記録用紙のみ（バインダーはコートに常備）を持って審判長の確認を受け、
**進行係に提出し、当該コートの次の記録用紙を受け取る**。

⑤ 受け取った記録用紙は次の試合に入る審判員に渡し、次の審判員として待機する。

⑥ 前の試合で選手から受け取った試合球は選球所に返却する。（＊２参照）

６．ゼッケンは令和６年度の日本卓球協会公認のものを着用することとなっています。

７．アドバイザー（各校の監督、コーチ、選手等）からは試合前に記録用紙の
下欄外にサインをもらって下さい。ただし、予定のアドバイザーが他の試合の
アドバイザーに入っている等でベンチに入れない場合は、選手の代筆により
アドバイザー名を記入すれば試合途中であってもベンチに入ることを認めます。

８．JTTAAの刻印等がない外国製ラケットは審判長認印のある
「ラケット使用許可願い」を確認し、その場で選手に返却してください。

９．ダブルスの試合は椅子を競技領域の外に出してください。

10．各日の第１試合など、一斉スタートが出来るラウンドは原則一斉スタートを予定して
います。その他の試合は準備のできたところから順次開始して下さい。

11. カウンターは6点毎に右側を手前に90度引き、
試合終了後はしばらくベンチ・観客席に向けておいて下さい。

12．タイム計測器は、
① ゲーム間の休憩時間は副審に近いサイド側、かつ中央通路側に置いて下さい。
② タイムアウト要求時は要求した側のコートセンターライン上で、
　エンドラインから15cm程度の位置に置いて下さい。

13．促進に入った場合のストロークカウンターは当該コートの待機審判員が入り、

いない場合には副審が対応し、その後本部で対応します。

14．進行掲示板（コートと試合番号の掲示）がないため、選手自身がプログラムの

タイムテーブルで試合番号を確認して指定されたコートに入ります。

（次の試合の選手は試合コート付近で待機するよう主将会議で確認済みです。）

15．選手が試合コートに現れない場合：
① 相手選手がベンチに来てから３分経過した時にアナウンスを依頼。
② マイクコールしてから2分経過しても来ない場合は審判長に報告して下さい。
　（棄権処理は極力避けるようにします。）

16．試合コートを変更する場合にはマイクコールを行います。

17．前の試合が早く終了した場合、次の試合は最大30分早めて開始します。

18．本大会は㈱Labo Liveとの契約で全試合ライブ配信しますので、
同様のライブ配信は報道登録されている方であっても禁止されています。

19．選手自らのプレーを撮影するためのビデオカメラ等は１台のみ認められます。

＊１：審判員用備品（本部席に持ち帰らずコートに常備しておく）：
カゴ、バインダー、台拭き、タイムアウト用Tカード（両ベンチ用２枚）、
タイム計測器、カウント器添付用カラーカード（ホワイト、イエロー、レッド）

＊２：予備用のボールは選球されたボールと一緒にならないように注意